

同窓会会報

第5号

平成15年11月11日

発行

鹿児島大学教育学部
同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
電話099-285-7711

組織の拡充をめざす

各卒業年次ごとの代表者を

平成十五年度同窓会役員総会は八月三日(日)、教育学部会議室で開かれた。開会に当たって松元兼俊会長は同窓会発足六年目を迎えて「活力ある同窓会の運営のために新しい組織づくり」を要望した。つぎに、顧問で同窓会発足に貢献された島田俊秀元学部長、会の基礎づくりの指導を

していただいた坂尾隆前学部長、中山右尚現学部長の挨拶をいただいた。来年度から実施される大学の法人化について、中山学部長は、「運営資金は国の交付を受け、六年ごとに経営方針を提出し、それらにより評価される」など実施上の問題点を指摘された。

ひきつづき会務報告を増田安和幹事が行った。議長に犬馬場茂さんを選出し、①平成十四年度決算報告案②平成十五年度事業計画案(一)、会報五号の発行、二、同窓会総会の開催準備作業の継続、三、後継者育成事業の継続③平成十五年度予算案④その他の四議案について審議議決し

た。質疑答案では、平成十四年度実施された後継者育成事業としての在学生による「鹿児島教育を語る会」について、会長の発想や全学科の学生が発表したことなどが評価され、学部側の指導により、すでに学生に教師としての心構えが出来ていることについての感想が発表された。反省としては、もっと多くの学生の参加と、卒業生との話し合いがほしいとの要望も出された。また、組織の充実拡大については、各卒業年次ごとの代表者の参加を多くできるように組織のあり方を今後検討することが話し合われた。



平成14年度の事業計画を話し合う役員

同窓会役員

顧問	島田俊秀	坂尾隆	中山尚	松元兼俊	木佐貫哲	池之迫男	上村陸郎	有馬暢洋	犬馬場茂	下田亮	榎添利光	石神正明	松元桂子	福島嘉久	南島孝一	松永郁一	今林俊一	佐土原幸一	青崎隆一	
幹事	橋野奈々代	村田孝和	増田安彦	假屋園昭彦	川内郁夫	川崎芳輝	川崎秀夫	川崎美夫	川崎吉郎	松山司郎	宮田志力	宮田弘一	宮田幸雄	宮田幸雄	川田幸雄	川田幸雄	川田幸雄	川田幸雄	川田幸雄	川田幸雄
監事																				
支部世話役																				

寄稿

志を持ち挑戦を

百木野 隆(昭和30年卒)
学校法人花沢学園
明聖高等学校顧問

川内小学校勤務。当時、私の関心は一時間の授業。児童が「わかった」と喜ぶような授業がしたい、できるようなりたい、その一念であった。ちょうどこの頃、斉藤喜博の島小での実践が、日本の教育界に波紋を広げていた。当然私も著書を読み、むさぼり

読んだ。素晴らしい内容、しかし授業を組み立てる具体策は見つからなかった。三十九年五月、一つの転機。同僚のK先生が見せてくれた一通の手紙。千葉県では、教員の経験者を求めているとの内容。東京の近くに行けば教師として多くのものが得られるはず。私は、この誘いにのることにした。三十九年十月、千葉へ来る直前の五年間は

千葉市での採用試験。その結果、翌年四月利根川べりの小さな町(現印西市)の大森小学校に赴任した。ここでの二年間は、地域・方言・教員社会などに慣れるのに費やした。四十二年四月、二度目の大きな転機。習志野市実習小学校への転勤。ここは文部省指

教育の素晴らしさを

尾崎 三津男(昭和49年卒)
株式会社アスコム
企画部部長

私は昭和四十九年小学校教員養成課程を卒業し、現在ソフトウェア開発会社で経営者をサポートする役をしております。ある程度責任のある立場にありますが、なぜか心が満たされません。振り返ってみるとここ三十年間、「生きる目的」を探し

と驚かされたものです。最近の共通話題は教育です。身近な教育について真剣に論じてきましたが、友人は青少年生活指導をボランティアで実践しており、行動力に差があります。私の場合、会社人間に近い生き方であったため、これで良かったのか悩んでしまいます。ぜひごん家庭と自分を犠牲にしてきました。一般会社は存続することが優先され、利益目標必達の行動原理が働きます。必然的に「損得とエゴ」が展開されるため、心の感動を得るのは困難です。会社で評価を受けても真の充実感はいまません。崇高な目的を持ち、教育現場でキバツテおられる皆さまに心からエールを送りたいと思います。

最初「生きる道」の選択で悩みました。まず大学卒業を目前とした時、次に福岡の某銀行に就職して二年後、これからの仕事は？貯金集めと知った時です。いずれ

同窓会の重要な活動として、「後継者育成に関する事業」について、前年の総会の決議をもとに、昨年の十二月、学部の方の努力により、在学生とのふれあいを求めた第一回「鹿児島の教育を語る会」が、学部一〇三号教室に、同窓会役員、会員、学部の先生方、在学生が集まり開催された。十六学科から代表一名が選出され、それぞれ五分以内で発表した。学生生活や教育実習を通しての体験、これからの教育に対する期待や心構えを真摯で情熱あふれる発表をして、会員に深い感銘を与えた。以下は発表会内容の一部である。

学校と親が信頼関係を

国語科三年 梶 雄 樹

教育とは学校だけでなされるものでない。両親が基本的なしつけを家庭でしっかりとしているかどうかということも、子どもの教育をする上で重要なことである。しかし、最近はそのようになってしまっ

いるように感じる。子どもに何か問題が起ると、学校が悪い、教師が悪いと言って、親としての自分の責任を棚に上げてしまっている人が多いのではないだろうか。

これからの教育は、学校と親がもっと連絡を密にし、お互いの責任を自覚し、信頼関係を築いていくことが必要ではないかと思う。昔の学校は、教師がその学校の校区内に住んでいたため、まめに生徒の家を訪ね、親とのコミュニケーションをとったりしていたという話を聞いたことがある。ご近所の付き合いすらほとんどないと言われる現代に、教師と親が信頼関係を築くということは困難なことかもしれない。

恩返しのためにも

社会専修三年 與 新一

私は高校三年の時、大学受験に失敗し、先が真っ暗闇の状況に心底困惑していた。「どうしても教師になりたい、そのためには大学は行かないといけない。でも、家庭の経済状況では予備校には行けない」そんな状態であった。そこで救いの手を差し伸べたのが、中学三年間担任をしてくださった恩師である。「一年間だけだったら俺が面倒をみよう」と言うので私を引き取ってくれた。どんなに感謝しても足りない。一生この恩は忘れることができない。先

これはだけのことをすべての教え子にできるとは思わない。しかし、子どもに対してこれに負けないぐらいの思いをもって接していきたいと思は思う。恩師が私にしてくれたことへの恩返しのためにも、私は熱い教師を、人間性豊かな教師を目指す。

私が教師になったら教師の資質、少人数学級制、家庭・地域参加型教育、以上三点の真の実現を願っている。この三つがこれからの教育には必要不可欠だと私は強く思う。

音楽の楽しさを共有

音楽科三年 中 島 未 来

音楽自体は好きだけど授業となるとつまらない、楽しくないと感じていた子どもは結構多い。実際、自分でも学生時代を振り返ってみると、自信を持って「楽しかった!」とは言えないような気がする。だから今回の本実習で音楽の授業に取り組みるとき、いろいろなことを考えた。私は音楽が大好きだ。その

思いをこの「授業」という場を通して、少しでも子どもたちと共有したいと思った。自分にとっての音楽の存在なんて、本当に人それぞれだろう。音楽がなくても生きていくことはできるだろう。それでも私は、人が生きていく上で音楽はなくてはならないものだと思う。程度の差はあれ、音楽にはそれくらいの力があると思う。

図工の評価

美術科三年 池 山 可 奈 子

図工では一つの題材の目標の中に「意欲・態度・自己評価・学び方の能力(発想力、構想力など)、知識・理解・技能(粘土をひねりだす、つまみだすなど)」が同時に存在し、これにしたがって評価される。確かにそれぞれの題材に応じた技能を組み込み、授業の中で子どもたちに教えることは、

子どもたちの表現の幅を広げることもつながら、有意義であり、また必要なことである。◇まとめ◇図工の評価においては、教師が子どもたちの制作過程における「意欲・態度」を注意深く見ること。子どもたちといかにふれあい、心の中心の変化をとらえられることができるかが大切である。

授業の中に地域を

家政専修四年 小 原 久 美 子

私は今年の教員採用試験(小学校)を受け、合格することができました。私は教師になってから次のことをやっていきたいと思っています。まず、地域を活用した教育です。私は高校の時に地学を専攻して以来、今でも地学に興味を持って勉強しています。特に、火山、川、湖、滝、地層、多くの島々などの鹿児島の自然には興味を

持っているもので、子どもたちにも体験的な活動を通して鹿児島の自然の素晴らしさを教えたり、また、授業の中に地域を生かしたものをたくさん取り入れたいと思っています。次に、学校と家庭・地域社会の協力です。なぜかというところ、自分が小学生、中学生のときに比べ、協力が少なくなっている気がするからです。

鹿児島の風土と文化を学ぶ

理科専修三年 山 本 昌 史

鹿児島大学の共通教育科目の中には「桜島火山」や「焼酎」などといった鹿児島の風土や文化を取り上げている講義があります。県外生にとつてはとても興味を引かれる内容であるとともに、鹿児島について知ることができ、良い機会であると思います。

私は一年生の時に「桜島火山」を受講し、鹿児島にある火山に興味を持ちました。そして、卒論においても、せっかく鹿児島大学に入ったのだから、鹿児島に関連したことを学んでいきたいと思い、今

所属している理科専修の物理学研究室に入ることを決めました。理科専修の専門の講義の中には野外に出て行われるものもあり、自然に自ら触れ合い、それらのことについて考察していくことができます。私たちの年代においても、自然と触れ合うことによつて新たな発見をしたり、驚くようなことも多々あり、その時の気持ちや、今後自分が教師になれたときに、子どもたちへと伝えられよう務めていきたいと考えています。

多くの学友と多くの経験を

心理学科大学院二年 安 楽 朋 陽

私がここで話したいのは、同窓会の集まりということもありまして、教育学部への熱い思いについてです。教育というものは教育するものが豊かな人生経験を体験しているということが非常に重要であると思えます。大学生時代に多くの友をつくり、多くのことを経験することが後々の教育現場に出た時の土台になるのではないかと思います。私は、心理科に学部と院を通じて六年間いました。その間に私が最も心がけたことは、先輩・同級生・後輩たち

との深い人間関係づくりです。私の所属する心理科では、一年一回、僻地の小学校や養護学校を訪問し交流会をします。それまでの準備や二日間の合宿を通して学生同士の関わりを多く持てます。新入生歓迎や忘年会などの飲み会も二次会、三次会、四次会と最終的には朝まで人間関係、教育、恋愛などについて語ります。また、鹿児島大学最大のビッグイベントである学祭を通して、協力することの大切さ、一体感、自己を解放してはじけることを学びました。

まちづくりは人づくり

地域社会教育専修三年 岩 下 弥 生

子どもの理解の観点からいうと、学校外での活動を通して子どもたちに触れ合わせるこ

学校で地域や社会との関わりを持つ学習を通して、人と人とのつながりや、関わり方

熱き想い

平成14年12月16日教育学部103号室

少人数指導を

数学科四年 前 原 佑 亮

鹿児島県は他の県と異なり、離島や僻地がたくさんあり、個性を生かし、生徒それぞれのペースに合わせることで

同窓会主催 =鹿児島島の教育を語る会=

在学生在が語



度より、現行の学習指導要領が導入され、「ゆとり」の中で個性を生かすための教育が展開されている。また、基礎・基本の徹底を図ることが、重要視されているので、離島、僻地では比較的基礎・基本の徹底が可能になるのではないかと。そして特に現在においては、少人数での指導が各地で行われている。少人数指導を行うことにより一人ひとりの

また、一斉授業になると、どうしてもクラスの生徒に授業の内容を100%理解させることは難しいのではないかと。そのために習熟度別の指導が適していると思う。成績が低い生徒に対しては、劣等感を抱かせてしまうのではないかと。そして、逆にならぬように、劣等感をやる気に変えることができれば全てがプラスの方向につながるのではないかと。

地域に入って学ぶ

教育学専修三年 植村 秀人

一年間、竹子小や上場で調査するなかで、参加する学生が決まっている問題に気がつきました。調査に行く前には、教育学専修の学生に参加を呼びかけているのですが、参加する学生はたいして決まっておらず、十人を超えて調査に行くことは一回あっただけです。原因は、地域社会に行つて調査をする活動に興味を持っていない学生が少ないという

うことであると思います。しかし、私は多くの学生の方に参加してほしいと考えています。なぜなら、鹿児島県の小学校には、竹子小や上場小のような規模の小学校が多数あることにあります。他の専修や課程の様子はよく分かりませんが、地域の人々が小学校や、その先生に何を望んでいるか学ぶ機会が少ないと思います。

国際社会に目を

国際理解教育専修四年 松山 美乃里

私は生徒に勉強だけではない、私が今まで経験したこと、学んできたことを少しでも多く伝えていけたらと考えている。昨年一年間、アメリカのサンディエゴでの留学を通して、私自身いろいろなことを経験し、留学したからこそ感じるものができたことも多々あった。

私が現地の人々や留学生から感じた文化、習慣の違いや、アメリカで実際に生活して感じたさまざまなこと、そして国際理解教育専修の学生として四年間学んだことを生徒に伝えたい。また、生徒たちが国際社会に目を向ける手助けができればと思っています。

子どもと向き合う

保健体育専修 山村 幸喜

私は教師になったら、教師と子どもたちという教える立場と教えられる立場をしっかりと区別する一方で、人間と人間との付き合いとして笑う時は一緒に笑い、泣く時は一緒に泣けるような気持ちを子どもたちと共感できる学級を目指していきたいと思っています。

そのためには子どもたちとしっかりと向き合い、子どもたちから逃げない自分でありたいと思っています。

学習指導の面では、人間はだれしも出来不出来があり、学習能力の差もまちまちなので、基礎的なものはしっかりとできるように教え、それ以上のものを望もうとする教育はしないようにしたいと思っています。言い換えるならば、子どもたちがそれぞれできること、好きなことを一つ持ち、それを伸ばしていきけるような教育をしていきたいと思っています。

学びの主役は子どもたち

障害児教育学科三年 内木場 晴宣

私は養護学校は知らない、差別であるといっているのではありません。学びの主役になるべきは子どもたちであり、障害をもった子どもの学ぶ権利を保障することのできない、受け入れられるだけの体制が整っていない普通学校に入れることは、逆に彼らの可能性を摘んでしまうことになるでしょう。本当に差別なものだと思っています。

く、全ての子どもの学ぶ権利を保障するというならば、目が悪い人に眼鏡を与えるように、それでも不自由な人には点字を与えるように、その子どもの必要に応じた学習環境を整えることが必要なのではないでしょうか。そして、学校教育においてまず整えるべき環境要素とは、教師そのものだと思います。

副免実習を通して

英語専修四年 田代 祥太

私は大学では初等コースに所属しており、将来は小学校の教員を志望している。そんな私にとって英語の授業はまったく未知の存在であり、実習を迎える前は「こんな私に英語の授業ができるのだろうか」と不安でならなかった。さらに実習前のオリエンテーションで、教官から「授業は英語を通してもらう」との話聞いたとき、私の不安はさらに高まった。しかし、ひとたび実習が始まると忙しさに追われ、いつの間にか不安は薄れていった。

最初の授業のことは今でもはっきり覚えていて。教壇に立った瞬間、頭が真っ白になった。シミュレーションしてきたことがまったく思い出せない。とにかく緊張して汗が流れた。口の中はカラカラ、声はうわづつ、思うように出せない。とにかくシミュレーションしてきたことを一つ一つたどりながら授業を進めた。

養護教諭の授業参加を

健康教育コース四年 中脇 千里

私がなぜ養護教諭の授業参加を求めたかという点、養護教諭は、自校の子どもたちのことをとてもよく知っているからです。成績をつけない養護教諭は子どもたちから誰にも話せない悩みや不安を聞くこともありません。自校の子どもたちの現状を知っていると、自校の保健室の現状や子どもたちの課題と向き合い、何が一番重要な課題で、どの課題を優先的に関わればいいのか、子どもたちの特性に合わせた授業の内容を考案することができると思うからです。

どの教科でもいい授業をするためには高い専門性と同時に、授業を受け持つ子どもたちをよく知らなければならぬという点、養護教諭は子どもたちにはなかなか伝わりにくい点で養護教諭は子どもの実態をよく知り、健康診断、健康相談などでの有効な資料をもっている点で、授業に入れた時間を作っていただきたいと思っています。

各学年同窓会だより

同窓会実施状況

- ① 卒業年度
- ② 同窓会名称
- ③ 会長名
- ④ 実施状況

① 昭和三十九年
三五・三九会
横峯政之

② 昭和三十一年
鹿大三一会
早水秀久

③ 昭和二十八年
昭26・鹿大教中2同期会
加籠六溢朗

④ 昭和二十九年
鹿大三一会
早水秀久

⑤ 昭和三十一年
鹿大三一会
早水秀久

⑥ 昭和三十三年
鹿大三一会
早水秀久

⑦ 昭和三十五年
鹿大三一会
早水秀久

⑧ 昭和三十七年
鹿大三一会
早水秀久

⑨ 昭和三十九年
鹿大三一会
早水秀久

⑩ 昭和四十一年
鹿大三一会
早水秀久

⑪ 昭和四十三年
鹿大三一会
早水秀久

⑫ 昭和四十五年
鹿大三一会
早水秀久

⑬ 昭和四十七年
鹿大三一会
早水秀久

⑭ 昭和四十九年
鹿大三一会
早水秀久

⑮ 昭和五十一年
鹿大三一会
早水秀久

⑯ 昭和五十三年
鹿大三一会
早水秀久

⑰ 昭和五十五年
鹿大三一会
早水秀久

⑱ 昭和五十七年
鹿大三一会
早水秀久

⑲ 昭和五十九年
鹿大三一会
早水秀久

⑳ 昭和六十一年
鹿大三一会
早水秀久

㉑ 昭和六十三年
鹿大三一会
早水秀久

㉒ 昭和六十五年
鹿大三一会
早水秀久

㉓ 昭和六十七年
鹿大三一会
早水秀久

㉔ 昭和六十九年
鹿大三一会
早水秀久

㉕ 昭和七十一年
鹿大三一会
早水秀久

㉖ 昭和七十三年
鹿大三一会
早水秀久

㉗ 昭和七十五年
鹿大三一会
早水秀久

㉘ 昭和七十七年
鹿大三一会
早水秀久

㉙ 昭和七十九年
鹿大三一会
早水秀久

㉚ 昭和八十一年
鹿大三一会
早水秀久

㉛ 昭和八十三年
鹿大三一会
早水秀久

㉜ 昭和八十五年
鹿大三一会
早水秀久

㉝ 昭和八十七年
鹿大三一会
早水秀久

㉞ 昭和八十九年
鹿大三一会
早水秀久

㉟ 昭和九十一年
鹿大三一会
早水秀久

㊱ 昭和九十三年
鹿大三一会
早水秀久

㊲ 昭和九十五年
鹿大三一会
早水秀久

㊳ 昭和九十七年
鹿大三一会
早水秀久

㊴ 昭和九十九年
鹿大三一会
早水秀久

㊵ 昭和一百零一年
鹿大三一会
早水秀久

㊶ 昭和一百零三年
鹿大三一会
早水秀久

㊷ 昭和一百零五年
鹿大三一会
早水秀久

㊸ 昭和一百零七年
鹿大三一会
早水秀久

㊹ 昭和一百零九年
鹿大三一会
早水秀久

㊺ 昭和一百一十一年
鹿大三一会
早水秀久

㊻ 昭和一百一十三年
鹿大三一会
早水秀久

㊼ 昭和一百一十五年
鹿大三一会
早水秀久

㊽ 昭和一百一十七年
鹿大三一会
早水秀久

㊾ 昭和一百一十九年
鹿大三一会
早水秀久

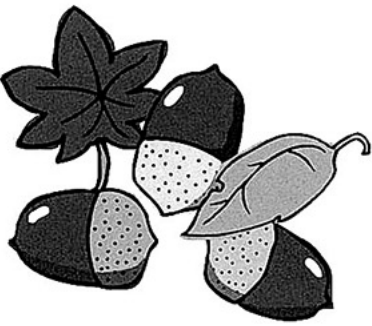
㊿ 昭和一百二十一年
鹿大三一会
早水秀久

① 昭和三十六年
三二中会
毎年交替

② 昭和三十三年
昭三三・中会
昭和三十二年度中学課程に入学した私も七十八名は、「三二中会」と称して四十四年から欠かさず毎年十一月を目途に開催しています。毎回二十名前後の参加があり、旧交を温めております。昨今は健康問題などが話題になっております。

③ 昭和三十一年
昭三十一・中会
昭三十一年度中学課程に入学した私も七十八名は、「三二中会」と称して四十四年から欠かさず毎年十一月を目途に開催しています。毎回二十名前後の参加があり、旧交を温めております。昨今は健康問題などが話題になっております。

④ 昭和三十三年
昭三三・中会
昭三十三年度中学課程に入学した私も七十八名は、「三二中会」と称して四十四年から欠かさず毎年十一月を目途に開催しています。毎回二十名前後の参加があり、旧交を温めております。昨今は健康問題などが話題になっております。



平成15年度教育学部同窓会予算

◎平成15年度事業計画
会報第5号の発行
同窓会総会の開催準備作業の継続
同窓会総会の開催準備作業の継続「鹿児島の教育について語る」

予算 (単位:円)

事項(区分)	予 算 額	備 考
前年繰越会費	9,715,831	15年度新入生 293名
会費	4,530,000	453×10,000= 4,530,000円
計	14,245,831	14年度卒業生 60名 既卒者 100名 計 453名

2. 支出の部 (単位:円)

事項(区分)	予 算 額	備 考
事務経費	350,000	賃金200千円、印刷費、通信費、消耗品費、備品等150千円
会議費	150,000	役員代表者会、役員総会経費
事業費	400,000	会報作成150千円、発送費100千円、後継者育成事業150千円
総会準備基金	1,500,000	総会開催準備積金(平成13・14・15年度分)
後援会出資金返還	500,000	同窓会設立時の教育学部後援会からの出資金の返還(100万円を2年に分けて)
予備費	11,345,831	
計	14,245,831	

平成14年度教育学部同窓会決算

1. 収入の部 (単位:円)

事項(区分)	予算額	決算額	増減額	備 考
前年繰越会費	8,505,605	8,505,605	0	新入生2,250,000 卒業生 0 既卒者 290,000 計 2,540,000
預金利息	4,340,000	2,540,000	△1,800,000	
計	12,845,605	11,046,635	△1,798,970	

2. 支出の部 (単位:円)

事項(区分)	予算額	決算額	増減額	備 考
事務経費	400,000	272,234	127,766	賃金、通信、文具、郵送料他
会議費	150,000	168,005	△18,005	代表者会議、役員会、総会等
事業費	350,000	390,565	△40,565	会報作成費、発送費、鹿児島の教育を語る会
総会準備基金	1,000,000	0	1,000,000	総会開催準備積金
募 金	500,000	500,000	0	鹿大創立50周年募金
予備費	10,445,605	0	10,445,605	
計	12,845,605	1,330,804	11,514,801	

お知らせ

来る十一月二十八日(金)、十六時五分から教育学部一〇三号教室で、在学生を中心に「鹿児島の教育を語る会」を開きます。在学生、卒業生の多数の参加をお願いします。

編集後記

会報五号をお届けします。日本の政治が大きく変わるでしょう。五号は県外に就職されたお二方の卒業生のご寄稿をいただきました。ありがとうございます。同窓会の拡充が大きな問題となっております。学年ごとの「同窓会だより」を求めました。他学年でも実施状況を事務局にお知らせ下さい。卒業生の方で住居変更の場合は事務局にお知らせください。会報が返送されていきます。▼「同窓会設立」の周知のために会報がありま。会員への配布にご協力ください。▼会報が必要な方は、教育学部同窓会事務局(電話099-285-7711)まで。

同窓会会則

平成10年1月25日制定

- 第一條 本会は鹿児島大学教育学部同窓会と称する。
- 第二條 本会は会員相互の親睦、母校の発展と教育の振興を図ることを目的とする。
- 第三條 本会は次の会員を以て組織する。
1. 正会員 鹿児島大学教育学部卒業生、同修了生、同専攻科及び同大学院教育学研究科修了生
2. 準会員 教育学部学生
- 第四條 本会は本部を鹿児島大学教育学部内に置き、支部を必要の地に置くことができる。
- 第五條 本会は第二條の目的を達成するため、原則として次の事業を行う。
1. 会員名簿の発行
2. 会報の発行
3. その他、本会の目的を達成するために必要な事業
- 第六條 本会に次の役員を置く。
- 会長 一名 副会長 二名
顧問 若干名 理事 若干名
監事 二名 幹事 若干名
支部世話役 若干名
- 第七條 役員は会員の中から選出する。
- 第八條 会長は会務を総理し、副会長及び理事は会長を補佐して会務を掌理し、監事は会計監査を行い、幹事は会務を処理する。
- 第九條 本会は毎年総会を開き、出席者を以て成立と認め、その他必要を認められた場合に臨時総会を開く。
- 第十條 各支部は、四月現在を以て会員の住所、氏名、職業及び支部の状況を報告する。
- 第十一條 会員は、その職業及び住所等に異動を生じたとき、改姓名をした場合は、本部に報告する。
- 第十二條 正会員は終身会費として金一〇,〇〇〇円を納付しなければならない。
- 第十三條 本会の運営に必要な経費は、終身会費及び雑収入を以てこれに充てる。
- 第十四條 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。
- 第十五條 毎年度の収支決算は、総会において報告する。
- 第十六條 本会則の改正は、総会の決議を要する。
- 附則 本会則は、平成十年二月一日より施行する。
- 細則 1. 第四條の支部は鹿児島、揖宿、川辺、日置、川薩、出水、伊佐、始良、曾於、肝属、熊毛、大島の地区に置く。
2. 第五條第一項の会員名簿の発行、第二項の会報の発行については、状況に応じて実費を徴収する。
3. 第十二條の終身会費は入学時に徴収する。